



私には25歳の脳性まひの息子がいます。生後2日目にけいれんがあり、硬膜下血腫除去手術の際、脳の一部にダメージがあり、後遺症として右半身まひと知的障害になる可能性がありますと言われました。母親として自分を責めましたが、健康に産んであげられなかったことを自分の責任だと感じていました。そんな気持ち

いづみ 母からの贈り物

ちが落ち込みに変わり、うつ病になってしまいました。育児がでなくなり、息子を何度か施設に預けることもありましたが、息子のために私ができることはなんなのか。あどけない顔で私を見つめる息子を抱きしめて考える日々が続きました。簡単に見つかりません。でも、あるとき気がきました

た。首のすわりも、はいはいも遅い息子でしたが、乳歯が生えるのは健常の子と一緒にした。生えてきた乳歯を見つめて私は決心しました。何もできない母親ですが、息子の歯をしっかりと磨いて虫歯ゼロを目指そうと誓いました。朝、晚かわい乳歯をみがきました。今も、膝枕で息子の歯を磨いています。小さな

ころからの歯磨きの成果なのか、虫歯は一本もありません。ささやかな母からのプレゼントです。障害のあるお子さんを抱えて子育てに行き詰まっているお母さん。大きな成果を成し遂げようとせず、小さなことをコツコツと積み上げていくてくださいます。それが私にとっては25年間の歯磨きでした。

谷本 千鶴香 (54歳・主婦)

＝千歳市

投稿は女性だけ、600字で。郵便、ファクスは原稿用紙を使い、生活部「いづみ」係、電子メールはizumi@hokkaido-np.co.jpへ。題、住所、氏名(ふりがなも)、年齢、職業、郵便、電話番号を明記。趣旨を損なわずに加筆することがあります。原稿はお返ししません。掲載分は電子版とデータベースに収録します。

子育てレスキュー

Q 2歳の女の子についてです。お風呂が大好きで、毎日40分くらい入っています。入りすぎではないかと思うのですが、本人は平気のようです。早く上がらせようとする怒りです。このままで大丈夫でしょうか。

2歳の子 長風呂が心配

A お風呂を嫌がるお子さんが好きというのは良いことです。入りますから、お風呂ね。湯船に漬かっているときは



イラスト・高原あゆみ

おもちゃで遊んだり、一緒に数を数えたりと、親子のコミュニケーションも広がります。とはいえ、子どもは楽しいと興奮し、のぼせることもありまな場所でもあります。湯船に自分で入ろうとしたり、浴槽内で足を滑らせたりすることもあり湯船に漬かる時間は、少し汗ばみます。決して目をそらさないようにくるぐらいまでが目安です。ただ、「上がりなさい」と(山本直美 NPO法人子育て言っただけでは難しいので、1か 学協会会長)

上がる合図を決めて

ら子どもを育てるのは当たり前。特別なことをしているとは言えず、20年までに13%とする国の目標にはほど遠い。内閣府が13年9月に行なった「ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査(複数回答)」によると、男性で「家事や育児時間を増やすために必要だ」と思うことが最も多かった回答は、正社員は「残業が少なくなること」で34・5%、非正規社員は「休暇が取りやすくなること」で38・8%。育児取得に必要と考える条件(正社員のみ回答)では、「職場の理解」が最多の34・7%だった。仕事量もさることながら、職場の雰囲気や男性の「仕事と子育ての両立」を左右すると言っても過言ではない。

■

札幌市内の写真撮影業「村重スタジオ」で働く佐々木謙さん(23)は昨年8月、第1子が生まれた後に1週間育児を取った。帝王切開で出産した妻に寄り添いたいと考えたからだ。提案したのは同社の村重道男社長(69)だ。「産後すぐの子育ては本当に大変。夫が妻を支えるのは当然だと思っ」と語る。男性社員が育児を取得すれば企業に助成金が入る国の制度なども調べ、「会社としても利点がある」と考えた。

佐々木さんは「できるだけ周囲に迷惑をかけないよう仕事を調整して休みに入った。子どもが生まれてから、早く帰るために仕事の効率化を考えるようになった。働き方が変わった」と話す。村重さんは「子育ては仕事にいい影響を与えてくれる。子育てしやすい雰囲気を作れば、会社が活性化される可能性は広がると思う」と自信を深めている。

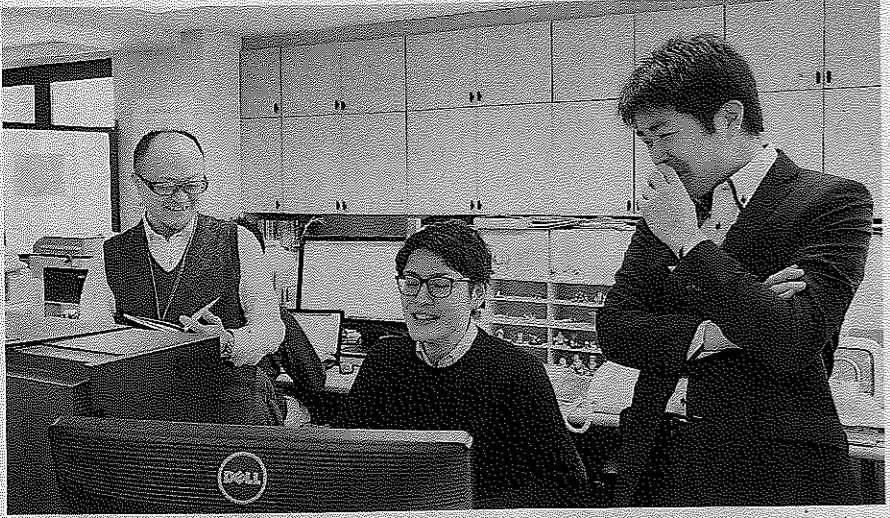
■

厚生労働省の調査では、2015年の男性の育児休業取得率は2・65%。増えているとは言えず、20年までに13%とする国の目標にはほど遠い。内閣府が13年9月に行なった「ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査(複数回答)」によると、男性で「家事や育児時間を増やすために必要だ」と思うことが最も多かった回答は、正社員は「残業が少なくなること」で34・5%、非正規社員は「休暇が取りやすくなること」で38・8%。育児取得に必要と考える条件(正社員のみ回答)では、「職場の理解」が最多の34・7%だった。仕事量もさることながら、職場の雰囲気や男性の「仕事と子育ての両立」を左右すると言っても過言ではない。

■

男性育児アドバイザーで企業の働き方支援などを行っている札幌市内の藤村侯仁さん(43)は「子育てに関わりたくて考える若い男性は多く、企業は子育て支援を経営戦略として位置づけなければ、良い人材を逃し、今後の成長にも影響する」と認識してほしいと強調。子育てする男性社員については、「普段から自分の状況を上司や同僚に伝え、理解を求める努力が大切。育児に関わる仕事への視点も変わる。成長できるチャンスだと思ってほしい」と呼びかけている。

働く男性の子育て 職場の理解 トップが鍵



子育てに関わりたくても、職場に理解がなく「休みが取れない」「早く帰れない」と嘆く男性は多い。父親が働きながら子育てできる職場づくりには、どういう取り組みが必要だろうか。実践している企業を探ってみると、「父親が子育てするのは当たり前」と考えるトップの姿勢が見えてきた。(片山由紀)

札幌市内のマーケティング業「バラシユート」に勤める伊藤政秀さん(44)は昨年4月に同社に転職。入社1カ月後に、4歳の娘が病気で1週間入院した。田中研治社長(41)に相談すると、「休んで看病した方がいい」と勧められた。結局1日休みを取り、共働きの妻と交代で入院に付き添った。伊藤さんは「前の職場なら、子どもを理由に休むな」とも言われていた。今会社に感謝している。今も娘が体調を崩し保育園を休まざるを得ない日は休暇を取ったり、早退する。同社では35人の社員のうち、6歳以下の子どもがいる男性社員は7人。仕事をいったん切り上げて子どもを幼稚園に迎えに行き、妻の帰宅後に再び出勤したり、幼稚園や保育所の行事に参加するために休みを取る社員は珍しくないと言

田中社長は「今は共働きが主流で、夫婦協力しながら子育てしている男性がすること。急な休みに備えて、普段から仕事の段取りを付けておく。普段から同僚や上司とコミュニケーションを取り、子どもが生まれることや子育ての状況を伝えておく」

男性が子育てしやすい職場づくりのポイント

経営陣や管理職がすること

- 父親が子育てするのは当然のことという雰囲気を職場でつくる
- 子育て支援を会社の経営戦略と位置づける

子育てしている男性がすること

- 急な休みに備えて、普段から仕事の段取りを付けておく
- 普段から同僚や上司とコミュニケーションを取り、子どもが生まれることや子育ての状況を伝えておく

「休んで看病」勧める / 育休を率先して提案

2015年の男性の育児休業